View metadata, citation and similar papers at core.ac.uk
brought to you by CORE
provided by Prometheus-Academic Collections

日本研究教育年報　第 24 号
2020（令和 2）年 3 月
1－19 頁

Japanese Studies: Research and Education
Annual Report Vol. 24
March 2020, pp. 1-19

〈論　文〉

語が文を包摂する形式の形式的特徴に関する考察

泉　大輔†
（東京外国語大学大学院総合国際学研究科博士後期課程）

An Analysis of the Formal Characteristics of “Sentential Compound”

Daisuke IZUMI
(Doctoral Program, Graduate School of Global Studies, Tokyo University of Foreign Studies)

キーワード：複合名詞、臨時一語、文の包摂、引用、『国語研日本語ウェブコーパス』
Keywords: Compound Noun, Nonce Form, Sentential Compound, Quotation, 'NINJAL Web Japanese Corpus'

要旨：本稿は語が文を包摂する形式（「振り込め詐欺」「早く帰れオーラ」など）の形式的特徴を記述することを目的とする。当該の形式には、①抽象概念を表す漢語・外来語名詞が多い、②心情や印象を表す発話形式が名詞の表す抽象概念の内実を言語化する、③名詞によって先行しやすい文末のモダリティ形式が異なる、④名詞が類概念を表し、発話形式が類概念を特徴づける種差となる点で複合名詞と同様の意味構造であるという特徴が見られることが明らかとなった。

Abstract: The purpose of this study is to clarify the formal characteristics of Japanese Sentential Compound forms through empirical investigation with the 'NINJAL Web Japanese Corpus'.

Investigation revealed three characteristics. First, nouns following sentences are frequently Sino-Japanese or borrowed words which express abstract ideas. Second, sentences preceding nouns frequently express the speaker’s emotions or impressions, verbalizing a detail of the abstract idea expressed by the noun. Finally, sentential compound forms share their semantic structure with compound nouns in general, in that the following element expresses a semantic head and the preceding element expresses a modifier characterizing the head.

原稿受理日（2019-10-01）
査読後掲載決定日（2020-01-09）
日本研究教育年報. 2020, Vol. 24, pp. 1-19. ISSN 2433-8923

† 本稿の著作権は著者が保持し，クリエイティブ・コモンズ表示 4.0 国際ライセンス（CC BY）下に提供します。https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja

1. 研究の目的と研究の背景

本稿の目的は、名詞が文に直接後続する形式（「振り込め詐欺」「ANA でハワイへ行こう！キャンペーン」「早く帰れオーラ」「へー、そうなんだ程度」「今すぐ辞めろ発言」「どっちなんだよ問題」「困ったな状態」など）について、コーパスを用いて収集した実例に基づき、その形式的な特徴を明らかにすることである。このような形式は、ブログ、ソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）[1]、商品名やイベント名、広告のキャッチコピー、日常会話などの口語体の表現において用例が多数観察される。

本稿で問題とする「今すぐ辞めろ発言」のような形式は、名詞が文に直接後続している点で一見したところ連体修飾構造のようにも見える。しかしながら当該の形式を従来の連体修飾構造として捉えることはできない。例えば「今すぐ辞めろ発言」の場合、「発言」が直接後続するのは述語動詞が命令形である文（「辞めろ」）となっている。修飾節の内部に動詞の命令形や意志形、終助詞、感動詞などの形式を含む場合には、通常の連体修飾構造では「今すぐ辞めろ<u>という</u>発言」のように「という」などを介して名詞を修飾する必要がある（大島 2003）。しかし、実例では文と名詞の間に「という」などの形式は現れていない。

このような現象を扱った先行研究は、管見の限り、名詞「状態」について考察した新屋（2014）のみである。新屋（2014）は名詞「状態」が「という」などを介さず発話を表す文に直接後続する形式（「「やったね!!!」状態」「「何だコリャ??」状態」など）について、その構造および意味・表現効果を記述している。しかし、「状態」という名詞以外にはそもそもどのような名詞が当該の形式を形成するのか、その実相は明らかになっていない。当該の形式の構造、意味・機能および表現効果を明らかにし、その全体像を記述する上では、幅広く実態を観察する必要がある。そこで本稿では、大規模コーパスを用いた定量的な調査を行い、まずは当該の形式について、その形式的な特徴を明らかにする。

なお、当該の形式を複合語形成の観点から見ると、複合名詞の前項が句に拡大した「句の包摂」[2]（影山 1993）の延長上にある現象とも捉えられる。すなわち、「今すぐ辞めろ発言」のような形式は、語の内部に「句」よりもさらに大きい単位である「文」が包み込まれているようにも捉えることができる。言わば「文の包摂」とでも言えるような現象である。

当該の形式が複合名詞の延長上に位置付けられるのかについては稿を改めて慎重に議論する必要があるが、本稿では当該の形式を便宜的に「語が文を包摂する形式」と呼び、まずはその実態を観察することを目的とする。以下では、当該の形式における文の部分を「前部要素」、文に後続する名詞を「後部要素」とする。

2. 研究の対象

本稿で研究の対象とする形式について、その前部要素には形式的にも意味的にも種々の文が見られる。以下では、本稿の研究対象となり得る 3 つのタイプについて述べる。第一のタイプは、以下の例（1）～（5）のように、文法的に連体修飾構造とは捉えることができな

---

[1] 「インターネット上の会員制サービスの一種。友人・知人間のコミュニケーションを円滑にする手段や、新たな人間関係を構築する場を提供する。企業や政府機関でも情報発信などに活用される。」（『広辞苑』（第 7 版）（2018）p.324）。代表的なものに Twitter、Facebook などがある。

[2] 「［夏目漱石と正岡子規］展」「［カラオケとゲーム］大会」のように語の内部に句が包み込まれる現象のことである（影山 1993）。句を前項とし、語を後項とする複合語については、林（1983）および石井（2007）では「臨時一語」の用例として取り上げられている（「［いい雰囲気］作り」、「［リクルート事件の発覚］直後」など）。

いものである。例（1）～（5）の用例の前部要素の文には動詞の命令形や意志形などが見られるが、これらの形式を含む文は名詞を直接修飾する連体修飾節が形成できない[3]。したがって、通常の連体修飾構造とは捉えられないため、本稿で取り上げる「語が文を包摂する形式」と判断できる用例である。なお、前部要素が鉤括弧（「」）に囲まれている用例と囲まれていない用例があるが、本稿では両者を区別せず、どちらも「語が文を包摂する形式」とみなす。

（1）＜鳥取県が実施する小中学校の教育施策について＞
「勉強がんばろうキャンペーン」は、子どもたち自身と子どもたちを支える家庭・地域・学校に発信するものです。（『とりネット／鳥取県公式ホームページ』[4]）

（2）＜女性専用車両に居座った男性が乗客から非難を受けた騒ぎに関するニュース＞
「降りろ」コール[5]の大合唱。女性専用車両が一時騒然となりました。
（フジテレビ『めざましテレビ』2018 年 2 月 28 日放送）

（3）＜次回のトライアスロンのレースに向けた水泳の練習にて＞
そんな泳ぎに変えるのじゃー。名付けて「みんな来年の俺を見たらビックリするぞ作戦[6]」。ということで今日は体の動きと使うべき筋肉を意識した練習。
（ブログ『ホノルルマラソンに出てから』[7]）

（4）「振り込め詐欺」に代わる新たな名称を募集していた警視庁は 12 日、東京都中央区の歌舞伎座で開いたイベントで、応募のあった約 1 万 4 千点から最優秀作品として「母さん助けて詐欺」を選んだと発表した。
（『日本経済新聞』（電子版）2013 年 5 月 12 日[8]）

（5）＜足をぶつけたことについて＞
でも、その時点ではまだ「あー、痛かった」程度に思っていたんだけど。ぶつけたのが午前中で、昼休みに外に出ようとパンプス履いたときに、そうとうぶつけてたことが判明。（ブログ『みむめも日記』[9]）

上の例（1）～（5）は、いずれも文の内部に、動詞の意志形（「がんばろう」）、動詞の命令形（「降りろ」「振り込め」）、終助詞（「ビックリするぞ」）、動詞のテ形（「助けて」）、感動詞（「あー」）といった形式が含まれている。これらの形式を含む文は連体修飾節として名詞

---

[3] そのような形式としては、動詞の命令形（「*［作れ］ケーキ」）、動詞の意志形（*［鈴木さんにあげよう］ケーキ）（大島（2003）p.92 例（8e）より引用）、動詞のテ形（*「［買って］お菓子」）、終助詞（*「［走っているね］犬」）、助動詞「だ」の終止形（*「［私の上司だ］佐藤さん」）、形容動詞の終止形（*「［私が好きだ］人」）、説明のモダリティ形式「のだ」（*「昨日買ったんだ」本）、感動詞（*「［あっ、走っている］犬」）（作例）などがある。これらの例は文と名詞の間に「という」などの形式を介しても不適格になる（「*作れというケーキ」「*私の上司だという佐藤さん」など）。一方、「語が文を包摂する形式」の場合は、「という」を介することで通常の連体修飾構造として適格になる場合が多い（「「降りろ」というコール」「「あー、痛かった」という程度」など）。

[4] http://www.pref.tottori.lg.jp/118090.htm（2018 年 2 月 9 日閲覧）

[5] 20 代後半の女性キャスターが読み上げたニュースである。ニュース映像では「オリロコール」というひとまとまりの音調で読まれている（傍点は高く読まれる箇所）。

[6] 当該のブログのプロフィール情報によると、ブログの執筆者は 50 代後半の男性である。このような形式の使用者は必ずしも若者に限定されるわけではないと推測される。

[7] http://macoto1127.blog45.fc2.com/blog-date-201308.html（2017 年 11 月 3 日閲覧）

[8] https://www.nikkei.com/article/DGXNASFK12008_S3A510C1000000/（2018 年 7 月 3 日閲覧）

[9] http://shoudayo.blog3.fc2.com/blog-date-200806.html?list（2019 年 9 月 13 日閲覧）

を直接修飾することはできないため、上記の用例はすべて「語が文を包摂する形式」であると判断できる。

第二のタイプは、上記の例（1）～（5）とは異なり、命令形や意志形のような形式が文の内部に見られない場合でも、「語が文を包摂する形式」であると判断できるものである（例（6）～（8））。通常、「発言」「メール」のような言語活動に関する名詞は、発話や文章を引用した節によって修飾される場合、「という」「っていう」などの形式を介する必要がある（日本語記述文法研究会 2008）。しかし、以下の例（6）～（8）では、「という」などを介さずに引用された文が名詞に先行している。この場合も通常の連体修飾構造とは捉えられないため、「語が文を包摂する形式」であると判断できる用例である。

（6）＜長期にわたる検査を行ったが、最終的に病名がわからなかったことについて＞
……と言うか、限界だった私が「もう帰る」宣言をしたため、とりあえずその状態で退院許可が何とか下りたと言うか(苦笑)
（ブログ『ちょっと難病になってみました２-難しい病気と書いて難病と言う-』[10]）

（7）＜待ち合わせの時間よりも早く到着した友人からのメールについて＞
５時３０分開場なのに、２時間前の３時半に待ち合わせした。のに、地下鉄の八事辺りの時、「もう着いた」メールが。早い。（ブログ『だって猫だもん』[11]）

（8）＜「まだまだ寒い」とブログに書いた直後、気候が暖かくなったことについて＞
ブログにて「まだまだ寒い」発言をしたばかりですが、急に半袖で外出できるくらい暖かくなったので、嬉しかったです。（ブログ『Meet the Caruso's』[12]）

上の例（6）～（8）では、それぞれ「宣言」「メール」「発言」という言語活動に関する名詞が、引用形式を介さずに、発話や文章を表す文に直接後続している。本来は「という」などを介する必要があるが、実際の用例には「という」は現れていない。したがって、通常の連体修飾構造ではなく、「語が文を包摂する形式」であると判断できる。

第三のタイプは、上記の 2 つのタイプにあてはまらないものである。例えば、以下の例（9）のように、第一のタイプの文の内部に出現する形式（命令形や意志形など）が見られず、かつ、「状態」のように「という」を介さずに内容節をとれる名詞[13]が後続するタイプである。

（9）＜情報セキュリティ関連のシステムについてのコラム＞
困った…。今日もどこかでため息が聞こえます。システム運用をしていると「困った」状態になることがあります。（『CTC システムマネジメント株式会社』ホームページ[14]）

ただし、上の例（9）のようなタイプは、「語が文を包摂する形式」と「通常の連体修飾構

[10] https://ncode.syosetu.com/n6584es/1/（2019 年 9 月 13 日閲覧）
[11] https://blog.goo.ne.jp/syu5537/m/201608（2019 年 9 月 13 日閲覧）
[12] http://haramegu.blog17.fc2.com/blog-entry-1249.html（2019 年 9 月 13 日閲覧）
[13] 「状態」は次の例のように、「という」の有無にかかわらず連体修飾構造を形成できる。「経済が停滞している｛φ／という｝状態」
[14] http://ctcs.secure-link.jp/special/itsecurity/p0001.htm（2019 年 9 月 13 日閲覧）

造」のどちらの形式であるのか、書かれたテキストからだけでは判断するのが難しい。この第三のタイプは、第一のタイプ（上の例（1）～（5））とは異なり、先行する文「困った」の中に動詞の命令形や意志形といった形式が含まれていない。

また、第二のタイプ（上の例（6）～（8））、すなわち、後部要素が「言語活動」に関する名詞である場合とは異なり、後続する名詞（例（9）では「状態」）は「事態」を表す名詞である。そのため、「という」の介在が任意であり（日本語記述文法研究会 2008）、「という」が介在しなくとも通常の連体修飾構造と考えて何ら問題がない。

しかし、仮に「「困った」状態」の「困った」が発話を引用したものであるとすれば、その発話を表す文「困った」を前部要素とする「語が文を包摂する形式」だと判断することも可能である[15]。このように、第三のタイプは「通常の連体修飾構造」と「語が文を包摂する形式」の二通りの解釈が考えられ、書かれたテキストだけではその判断が難しい場合もある。

以上、「語が文を包摂する形式」と考えられる形式のタイプを 3 つ挙げたが、このうち、コーパスを用いて用例を収集する上で、検索条件の指定が可能なもの（第一のタイプ）と、検索条件の指定ができないもの（第二のタイプおよび第三のタイプ）がある（4 節で後述）。第一のタイプ、すなわち、動詞の命令形や意志形、終助詞などの形式が前部要素の文の内部に含まれている場合（例（1）～（5））は、コーパスの検索条件に「命令形」「意志形」などの活用形や、「終助詞」などの品詞を指定することができる。したがって、当該の形式の用例を収集することが可能である。

しかし、そのような形式が含まれない第二のタイプおよび第三のタイプ（例（6）～（9））は、「語が文を包摂する形式」であると判断できる形式をコーパスの検索条件に指定することができない。コーパスで検索する上でこのような限界があることから、本稿では第一のタイプ（例（1）～（5）のような形式）だけを検索の対象とする。なお、本稿では、「語が文を包摂する形式」を後部要素が名詞であるものだけに限定し、接尾辞であるもの[16]については今後の課題として考察の対象とはしない。

3. 先行研究の検討

「語が文を包摂する形式」に関する先行研究を検討した結果、次の 3 つの問題点があることがわかった。すなわち、①当該の形式を形成する後部要素の名詞にはどのようなものがあるのかが明らかになっていないこと、②前部要素となる形式にはどのような文があるのかが明らかになっていないこと、③前部要素と後部要素の間に有機的な関係が見られるのかが明らかになっていないことの 3 点である。以下、順に詳細を述べる。

---

15 「語が文を包摂する形式」と判断する上では、音調的な特徴および表記的な特徴も一つの基準になり得ると考えられる。音調的な観点から見ると、「「困った」状態」の場合、「語が文を包摂する形式」であれば、「コマッタジョウタイ」（傍点は高く読まれる箇所）のようにひとまとまり的な音調で読まれるものと考えられる。一方、通常の連体修飾構造の場合は「コマッタジョウタイ」のように読まれる。また、表記的な観点から見ると、前部要素が鉤括弧で囲まれている場合は「語が文を包摂する形式」である可能性が高い（「「困った」状態」など）。通常の連体修飾構造では修飾節は基本的に鉤括弧に囲まれない（「困った状態」など）。しかし、鉤括弧の有無は使用者（書き手）によって異なるため、「語が文を包摂する形式」と判断できる絶対的な基準ではない。

16 「的」「風」「系」「式」「感」などを取り上げた接尾辞研究の中では、これらの接尾辞が文を前項とする派生語を形成し得ると記述されている（山下 2005、金田 2014 など）。

問題点①：後部要素になる名詞にはどのようなものがあるのかが明らかになっていない

「語が文を包摂する形式」について扱った先行研究は管見の限り新屋（2014）のみである。そこでは、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』を用いて、文に直接後続する「状態」の用例を収集し、「「やったね!!!」状態」「「何だコリャ??」状態」のような形式の文法的な構造および意味的な構造、表現効果について記述している。

しかし、先行研究では「状態」の用法のみが取り上げられているが、実例を観察すると、「状態」以外にも種々の名詞（「発言」「程度」など）が文を包摂する用法を持つことがわかる。このように、「語が文を包摂する形式」を形成する後部要素の名詞に関して、先行研究で取り上げられている「状態」のほかにどのようなものがあるのか、その出現状況は明らかになっていないと言える。このような問題を解決するにあたっては、大規模コーパスなどを用いて実例を収集し、定量的な調査を行うといった方法が有効ではないかと考えられる。

問題点②：前部要素になる文にはどのようなものがあるのかが明らかになっていない

新屋（2014）で取り上げられている用例はいずれもその前部要素が発言や心内発話を表す文である。しかし、実例を観察すると、必ずしも発話を表す文しか前部要素にならないというわけではなく、文の形式をとる「成句」[17]（「果報は寝て待て状態」など）および「タイトル」（「太陽にほえろ！状態」[18]など）もその前部要素となる場合が見られる。このように、前部要素となる形式の特徴については記述の余地があると考えられる。

問題点③：前後の要素間に有機的な関係が見られるのかが明らかになっていない

新屋（2014）では、文に「状態」が直接後続する形式について、後部要素「状態」に先行する文には制約がなく自由に組み合わさることから、当該の形式が統語的に生成されていると述べられている。挙げられている実例を見ると、確かに種々の形式をとる文が「状態」に先行しており、その組み合わせは自由で統語的に生成されていると言えそうである。

しかし、実例のうち、名詞「キャンペーン」が文に直接後続する形式（「ANA でハワイへ行こう！キャンペーン」「幻のポケモンをもらおうキャンペーン」など）に着目すると、その前部要素の文は「意志」「勧誘」のモダリティを表し、「動詞の意志形」を述語とする文が多いという傾向が見られる。したがって、当該の形式を形成できる名詞であればすべて、種々の形式の文と自由に組み合わさることができるわけではないと推察される。このように、「状態」以外の名詞が後部要素となる場合、前部要素と後部要素の間に何らかの有機的な関係が見られるのかについては明らかになっていない。

なお、本稿で研究の対象とする形式は、従来の文法規則には当てはまらない例外的な言語形式である。そのため、規範的な書き言葉においては出現することがなく、これまであまり議論がなされていなかった。しかし、当該の形式はブログ、SNS などの口語体のテキスト

---

[17] 「成句」とは「古くから多くの人に用いられてきた語句」のことであり、ことわざ（「出る杭は打たれる」「朱に交われば赤くなる」など）、故事成語（「杞憂」「臥薪嘗胆」「背水の陣」など）、格言（「石の上にも三年」「沈黙は金」など）、名句（「国破れて山河在り」（杜甫「春望」）など）、名言（「余の辞書に不可能の文字はない」（ナポレオン））などがあり、文の形式であっても語相当のものとして用いられると述べられている（沖森他 2012：7-8）。

[18] 「太陽にほえろ！」はテレビドラマのタイトルである。

を見ると、その実例の数は少なくはない。上述の先行研究では、口語体のテキスト（『現代日本語書き言葉均衡コーパス』における「Yahoo!知恵袋」および「Yahoo!ブログ」、およびその他のウェブ上のテキスト）から得られた用例を提示している。しかし、その用例は少数にとどまり、十分な量のデータに基づく検討は行われていない。

当該の形式の用例収集に適した言語資料としては、当該の形式が出現しやすいウェブ上のテキスト（ブログなど）がある。しかし、ウェブ上のテキストには同一のページが繰り返し引用されているというような問題があるため、ウェブ上のテキストからデータを直接収集するのは適当ではないと考えられる。その点を解決するために開発されたコーパスには『国語研日本語ウェブコーパス』[19]がある。このコーパスを用いることにより、当該の形式の実例をより的確に収集できるのではないかと考えられる。

以上の先行研究および調査方法の検討をふまえて、本稿では「語が文を包摂する形式」についてその全体像を明らかにするために、まずはその出現状況および形式的な特徴を記述する。その際、当該の形式が出現しやすいウェブ上のテキストデータが収録された大規模コーパスを用いて用例の収集を行う。

4. 研究方法

4.1 コーパスの検索方法の検討

本稿では用例収集に『国語研日本語ウェブコーパス』（検索系『梵天』）を使用する。このコーパスでは「品詞」や「活用形」などの条件を指定することで用例の検索が可能である。当該の形式のように「文」の直後に「名詞」が後続する形式を抽出するためには、「文」の直後に「名詞」が共起するという条件を指定できればよい。しかし、コーパスでは検索条件に「名詞」を指定することはできても、「文」という単位を指定する条件はない。そのため、「文」を検索するための別の条件を設定しなければならない[20]。

そこで本稿では、当該の形式の多くの用例で、その前部要素の文の内部に種々の文末形式が現れることに着目する。そのような文末形式のうちのいくつかをコーパスの検索条件に指定することで、当該の形式の用例の抽出を試みる。例えばコーパスの検索条件で、「動詞の命令形」の直後に「名詞」が後続するように指定すれば、「今すぐ辞めろ発言」などの用例を抽出することができる。

本稿では、以下の 4 つの形式を検索条件に指定する。すなわち、(a) 動詞の命令形（「早く帰れオーラ」など）、(b) 動詞の意志推量形[21]（「幻のポケモンをもらおうキャンペーン」など）、(c) 断定の助動詞「だ」の終止形（「犯人はお前だ宣言」など）、(d) 終助詞「な」（「こんなもんだな程度」など）である。これらの形式が文末に現れる文は、後続する名詞を直接修飾することできない。そのため、「通常の連体修飾構造」ではなく、「語が文を包摂する形式」だと判断できる形式である。

(a) 動詞の命令形および (b) 動詞の意志推量形を選択したのは、筆者が観察した限り、当該の形式の前部要素の文にはその述語動詞が「命令形」や「意志推量形」である用例が多

---

[19] 国立国語研究所がウェブ上の日本語テキストから収集したデータをもとに開発した日本語コーパスである。ウェブ上のデータの収集期間は 2014 年 10～12 月とされており、約 100 億語が収録されている。

[20] 「文」の単位を検索するために、句点（「。」）、感嘆符（「！」）、疑問符（「？」）を検索条件に指定する方法が考えられるが、『国語研ウェブコーパス』ではその仕様上、これらの記号を検索することはできない。

[21] コーパスの検索条件として指定できる「活用形」の 1 つである。「読もう」「食べよう」のような動詞の意志形および「だろう」「でしょう」のような推量の形が検索可能である。

く見られたためである。(c) 断定の助動詞「だ」の終止形を選定した理由は、この形式をコーパスの検索条件に指定することで、「名詞＋だ」という形式の名詞述語文（「「これは夢だ」状態」など）、形容動詞の終止形で終了する形容詞述語文（「「どうせダメだ」発言」など）、説明のモダリティ形式「のだ」で終了する文（「どうしたらいいんだ状態」）のように、種々の形式の文を抽出できるからである。これらはいずれも「という」などを介さずに名詞を直接修飾できない文である。(d) 終助詞「な」を選定する理由は、筆者が行った予備的な調査において、「語が文を包摂する形式」の前部要素の文末に現れる終助詞のうち、終助詞「な」の用例が最も多く見られたからである（泉 2018）[22]。

4.2 コーパスの検索の手順および用例の収集方法

用例の収集および集計には、『国語研日本語ウェブコーパス』（検索系『梵天』）、『茶器』（Chaki.NET）[23]、「Excel」を用いる。以下、表 1 の流れにしたがってその手順を述べる。

表 1　検索および用例の集計の手順

操作	使用ツール	手順
検索	『国語研ウェブコーパス』	①「品詞列検索」を用いて検索条件の指定および検索を行う。
		②検索結果を「CaboCha 形式」でダウンロードする。
変換	『茶器』	③「CaboCha 形式」をインポートする。
		④「SQLite コーパス」を作成する。
		⑤「Tag 検索」を用いて検索条件の指定および検索を行う。
		⑥検索結果を「Excel」にエクスポートする。
集計	『Excel』	⑦「ピボットテーブル」を用いて用例の集計を行う。

手順①および手順②（『国語研ウェブコーパス』での用例の検索およびダウンロード）では、まず、『国語研ウェブコーパス』の「品詞列検索」を用いて、以下の表 2 における（a）～（d）のように検索条件を指定する。また、検索条件を指定した検索画面を図 1 に示す。

表 2　コーパスにおける検索条件

文末形式	検索条件		
	ボックス 0	ボックス 1	ボックス 2
(a)命令形	＜品詞 1＞「動詞」 ＜活用形 1＞「命令形」	＜語彙素＞「」」	＜品詞 1＞「名詞」 ＜品詞 2＞「普通名詞」
(b)意志推量形	＜品詞 1＞「動詞」 ＜活用形 1＞「意志推量形」		
(c)助動詞「だ」終止形	＜活用形 1＞「終止形」 ＜語彙素＞「だ」		
(d)終助詞「な」	＜語彙素＞「な」		

[22] 『国語研ウェブコーパス』を用いて「終助詞」に「名詞」が直接後続する形式および「終助詞」と「名詞」の間に「鉤括弧閉」を介する形式を検索した。得られた 2 万件のデータを集計したところ、「語が文を包摂する形式」の前部要素の文末に生起する終助詞には、「な」（303 件）、「よ」（291 件）、「ね」（171 件）、「か」（165 件）、「ぞ」（57 件）、「の」（39 件）、「ぜ」（33 件）、「わ」（29 件）などがあった。

[23] 『茶器』とは文字列、単語列および係り受け関係による検索機能を備えたコーパス管理ツールである。

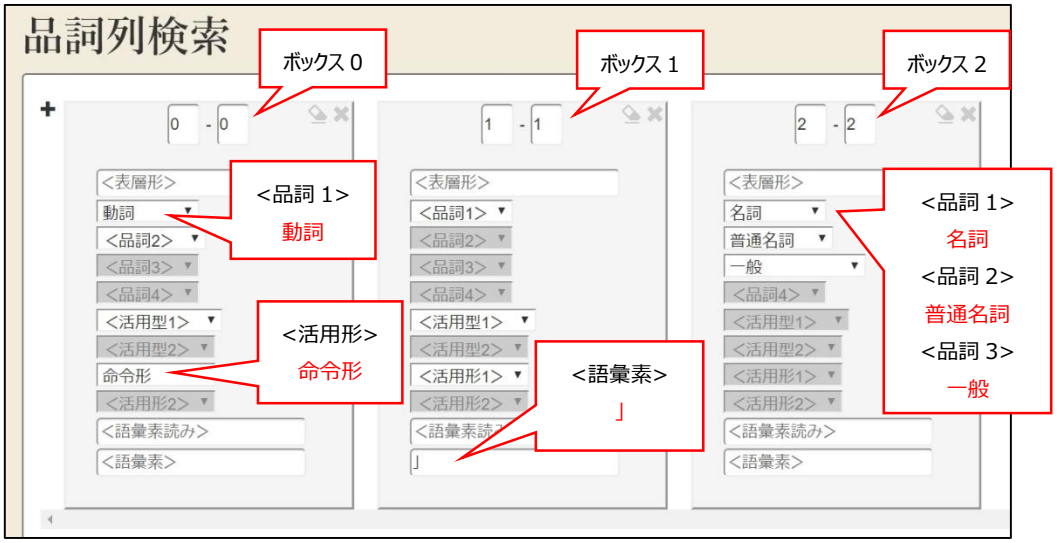

図 1　コーパスの検索画面（(a)「命令形」の場合）

図 1 のように、まず、「ボックス 0」（図 1 左側）では各文末形式の条件を指定し（図 1 中の（a）「命令形」の場合では＜品詞 1＞に「動詞」、＜活用形＞に「命令形」を指定）、「ボックス 1」（図 1 中央）および「ボックス 2」（図 1 右側）では次のような検索条件を指定する。

「ボックス 1」では文末形式と名詞との間に「鉤括弧閉」が介在するように条件を指定する（図 1 では＜語彙素＞に鉤括弧閉「」」を指定）。実例を観察すると鉤括弧に囲まれていないものも一定数見られるが、その場合、書かれたテキストからだけでは当該の形式における前部要素の文の範囲が判断しにくい。本稿では前部要素の範囲を明確にするために、前部要素が鉤括弧で囲まれたもののみを検索対象とする。

「ボックス 2」では、後部要素となる名詞が「普通名詞」になるよう指定する（図 1 では＜品詞 1＞に「名詞」、＜品詞 2＞に「普通名詞」を指定）。検索結果を「CaboCha 形式」でダウンロードする上で問題となるのが、「CaboCha 形式」は『国語研ウェブコーパス』の仕様上、1 万件以上の用例をダウンロードすることができないということである。

そこで、検索結果ができるだけダウンロード可能数の上限である 1 万件以下になるようにする。その手順としては、「普通名詞」の下位分類 6 種[24]を順に検索条件に指定し（図 1 では＜品詞 3＞を「一般」に指定）、6 回に分けて検索を行う。このようにして得られたデータを「CaboCha 形式」でダウンロードする[25]。得られた用例数は動詞の命令形が 24,817 件、動詞の意志推量形が 11,135 件、助動詞「だ」の終止形が 15,641 件、終助詞「な」[26]が 17,920 件であった。

続いて、手順③～⑥（『茶器』（Chaki.NET）におけるファイル形式の変換）の工程では、コーパス管理ツール『茶器』（Chaki.NET）を用いる。ダウンロードした「CaboCha 形式」のファイルはそのままでは集計を行うことができない。そのため、「CaboCha 形式」のファ

24　「普通名詞」の下位分類の 6 種とは、「サ変可能」（「勉強」など）、「サ変形状詞可能」（「心配」など）、「一般」（「山」「犬」など）、「形状詞可能」（「危険」など）、「助数詞可能」（「点」「組」など）、「副詞可能」（「通常」「以上」など）である。

25　ただし、上記の 6 種の下位分類に分けて検索を行っても 1 万件以上の用例がある場合は、無作為に選ばれた 1 万件の用例のみをダウンロードする。

26　得られた終助詞「な」の実例には、「禁止」を表すものと、「詠嘆」を表すものの両方が含まれる。

イルを『茶器』に取り込み、「SQLite コーパス」を作成する。この「SQLite コーパス」というのは「CaboCha 形式」のファイルを検索可能な形式に変換したものである。その後、「SQLite コーパス」の「Tag 検索」で文末形式ごとに検索を行う（図 2）。これにより得られた検索結果は「Excel」ファイル形式でエクスポートできるため、用例の集計が可能となる。

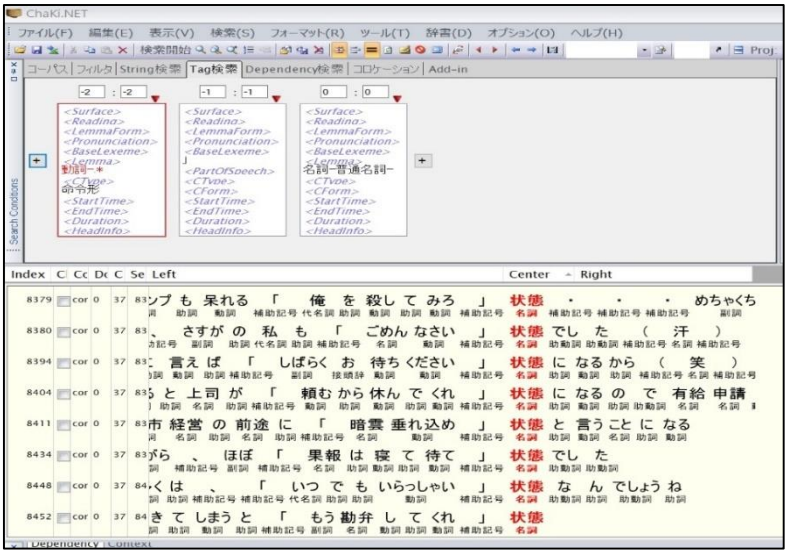

図 2　『茶器』に取り込んだ「SQLite コーパス」における「Tag 検索」画面

最後に、手順⑦（「Excel」ファイルでの集計）では、「Excel」ファイルにエクスポートし、「ピボットテーブル」の機能を用いて集計を行う。集計作業では、用例数が 50 件以上見られる名詞を抽出する。重複する用例を Excel の機能を用いて削除した上で、分析の対象外となる用例[27]を目視で確認し、除外する作業を行う。最終的に得られた用例数を次節で示す。

5. 用例の集計結果

前節で述べた手順で用例数を集計した結果、最終的には有効な用例として 14,227 件が得られた。その用例を見ると、「語が文を包摂する形式」を形成する後部要素になり得るものには少なくとも 38 種類の名詞があることがわかった（表 3）。

表 3　用例数の内訳

文末形式	名詞の種類数（用例数が 50 件以上のもの）	度数
命令形	32	5,337
意志推量形	19	3,589
助動詞「だ」終止形	6	1,473
終助詞「な」	5	2,860
合計	38（異なり語数）	14,227

[27] 分析の対象外となる用例は基本的にコーパスの誤解析によるものである。例えば、名詞「ひっかけ」（引っ掛け）が動詞「引っ掻く」の命令形として誤解析された例、名詞「おけ」（桶）が動詞「置く」の命令形として誤解析された例などがある。

用例数は「命令形」（5,337 件）、「意志推量形」（3,589 件）、「終助詞「な」」（2,860 件）、「助動詞「だ」終止形」（1,473 件）の順に多い。用例数の多い「命令形」および「意志推量形」に関しては、後部要素の名詞の種類も多く、それぞれ 32 種類、19 種類の名詞が後部要素になり得る。「助動詞「だ」終止形」と「終助詞「な」」は、後部要素の名詞がそれぞれ 5 種類、6 種類と比較的少ない。さらに、「終助詞「な」」に関しては、「助動詞「だ」終止形」の約 2 倍の用例数が見られるにもかかわらず、後部要素となり得る名詞の種類が少ない点が特徴的である（「④終助詞「な」の用例」で詳述する）。以下、文末形式ごとの用例の集計結果を順に見ていく。

①命令形の用例

以下の表 4 は前部要素が「命令形」で終了する文の場合の集計結果である。

表 4　動詞の命令形で終了する文に後続する名詞（用例数が 50 件以上見られたもの）

順位	名詞	度数	前部要素の一例
1	コール	722	「がんばれ」「帰ってこい」「帰れ」「出て行け」「辞めろ」「シュート打て」
2	発言	717	「戦ってください」「かかってこい」「早く座れ」「辞めろ」「空気読め」「黙れ」
3	状態	700	「しばらくお待ちください」「勘弁してくれ」「やめてくれ」「行って来い」
4	攻撃	361	「{ごはん／おやつ／エサ} くれ」「買ってくれ」「{遊び／旅行} に連れて行け」
5	メール	300	「{教えて／助けて／譲って} ください」「(早く) 帰って来い」「ごめんなさい」
6	程度	226	「頑張れ／頑張ってください」「注意して {くれ／ください}」「気を付けろ」
7	オーラ	160	「話しかけないでください」「(早く) 帰れ」
8	シリーズ	153	「ウォーリーをさがせ」「よいこになあれ」「宇宙へ飛び出せ」
9	精神[28]	123	「やってみなはれ[29]」「急がば回れ」「習うより慣れろ」「当たって砕けろ」
10	キャンペーン	114	「{子どもたち／地球} を救え」「(キャラクター名) を探せ」
10	タイプ	114	「俺に {ついてこい／任せろ}」「習うより慣れろ」「果報は寝て待て」
12	アピール	111	「{エサ／おやつ／ごはん／めし} くれ」「{遊んで／買って} くれ」
13	遊び	107	「{取って／持って} 来い」
14	指令	105	「{牛乳／餃子} 買って来い」「(早く) 帰って来い」
15	コーナー	102	「ご自由に {お持ち帰り／お取り} ください」「{アトム／仲間はずれ} を探せ」
16	レベル	96	「注意してください」「しばらくお待ちください」「ご遠慮ください」
17	運動	94	「{ウォール街／東京} を占拠せよ」「出て行け」
18	作戦	89	「押して（も）ダメなら引いてみろ」「急がば回れ」
19	命令	85	「帰れ」「来い」「降りろ」
20	メッセージ	83	「頑張ってください」「しばらくお待ちください」
21	モード	81	「おやすみなさい」「勘弁してください」
22	ポーズ	80	「ごめんなさい」「くれくれ」
23	画面[30]	78	「ログインしてください」「パスワードを入力してください」
24	方式	76	「ご自由にお持ちください」「急がば回れ」「習うより慣れろ」「損して得とれ」
25	宣言	68	「娘さんをください」「結婚してください」「付き合ってください」

28 「精神」は主に「方式」「方針」の意味で用いられている。

29 「やってみなはれ精神」は飲料メーカー・SUNTORY 社の創業者の理念に基づく社風のことである（https://www.suntory.co.jp/company/research/history/frontier.html 2019 年 9 月 3 日閲覧）。

30 「画面」の用例は PC やスマートフォンの画面に表示されたメッセージのことを指している。

26	ゲーム	60	「待て」「{ミッキー／スパイ} を探せ」
26	表示	60	「しばらくお待ちください」「充電してください」
28	スレ[31]	58	「この本を読め」「作曲できる奴ちょっと来い」
29	コメント	56	「おかえりなさい」「食べてみてください」
30	イベント	54	「スティッチを探せ」「{娘さん／お嬢さん} をください」
31	連呼	53	「ごめんなさい」「出て行け」「帰れ」
32	デモ	51	「ウォール街を占拠せよ」「尖閣諸島を守れ」
合計		5,337	

「コール」「発言」「状態」という 3 つの名詞についてはいずれも 700 件以上の用例が見られ、この 3 つの名詞で全体の 3 割を占める。また、他の文末形式の用例と比べて、種々の名詞が後部要素になり得るのが特徴である。前部要素には「命令・指示」または「野次・非難」（「帰れ」「出て行け」など）、「依頼」（「買ってくれ」など）、「応援」（「頑張れ」など）、「挨拶」（「おやすみなさい」など）、「成句」（「果報は寝て待て」など）を表す文が見られる。

②意志推量形の用例

以下の表 5 は前部要素が「意志推量形」で終了する文の場合の集計結果である。

表 5　動詞の意志推量形で終了する文に後続する名詞（用例数が 50 件以上見られたもの）

順位	名詞	度数	前部要素の一例
1	キャンペーン	773	「ミッフィーシールをあつめよう」「そうだ京都へいこう」「東北を応援しよう」
2	程度	372	「とりあえずがんばろう」「これでいいだろう」「気をつけよう」
3	企画	295	「レビューを書いてプレゼントをもらおう」「サプライズで誕生日を祝おう」
4	発言	257	「飽きた、もう帰ろう」「結婚しよう」「どうしよう」「最後は金目でしょう」
5	プロジェクト	216	「手作りトートバッグで被災地を応援しよう」「カンボジアに学校を建てよう」
6	コーナー	188	「選手に聞いてみよう」「みんなで短歌・俳句を詠もう」
7	状態	184	「どうしよう」「こんなの無理だろ」「ま～何とかなるでしょう」
8	イベント	167	「東北の酒をのんで応援しよう」「政治家と話そう」「本を読んで寄付をしよう」
9	作戦	161	「買い物は歩いていこう」「数を撃てばそのうち当たるだろ」
10	運動	160	「東京にオリンピックを招致しよう」「元気に挨拶しましょう」
11	計画	124	「お家を建てよう」「秋あたりに温泉に行こう」「今から東京行こう」
12	攻撃	119	「遊ぼう遊ぼう」「公園行こう」「早く帰ろう」
13	精神	100	「できることからはじめよう」「とりあえずやってみよう」
14	ツアー	96	「そうだ、京都へ行こう」「そらジローに会いにいこう」
15	講座	91	「コンピュータで音楽をつくろう」「親子でリースを作ろう」
16	モード	77	「どうしよう」「帰りましょう」「みんなに任せよう」「遊ぼう」
17	レベル	75	「ま、こんなもんだろう」「これからがんばりましょう」
18	メール	74	「デートしよう」「ごはん行きましょう」「一緒に帰ろう」
19	アピール	57	「俺カッコイイだろ」「早く帰ろう」「遊ぼう」「私って面白いでしょ」
合計		3,589	

[31] 「スレ」とは「スレッド」の略称である。「スレッド」とは、ウェブ上の掲示板などにおいて、ある特定の話題に関する投稿がまとめられたもののことである。

「キャンペーン」という名詞だけが 700 件以上の用例が見られ、全体の約 2 割を占める。度数が 2 位以下の名詞には「命令形」の場合と共通するものもあるが（「程度」「発言」「状態」など）、「命令形」の場合には見られない「プロジェクト」「イベント」といった名詞も出現するのが特徴である。前部要素は基本的に「意志」（「早く帰ろう」など）や「勧誘」（「東北を応援しよう」など）を表す文である。

③助動詞「だ」終止形の用例

以下の表 6 は前部要素が「助動詞「だ」終止形」で終了する文の場合の集計結果である。

表 6　助動詞「だ」の終止形で終了する文に後続する名詞（用例数が 50 件以上見られたもの）

順位	名詞	度数	前部要素の一例
1	発言	550	「おまえのためだ」「謝罪すべきだ」「女は子を産む機械だ」
2	程度	513	「へぇ、こんなのがあるんだ」「ああ、そういう人がいるんだ」
3	状態	234	「もういやだ」「俺はダメだ」「お前は何を言っているんだ」
4	宣言	73	「絶交だ」「俺がルールだ」「お前には無理だ」
5	エンド[32]	53	「俺達の戦いはこれからだ」
6	レベル	50	「そんなことあったんだー」「こりゃ、どー見ても本物だ」
合計		1,473	

用例数の多い「発言」「程度」「状態」は他の文末形式の用例にも共通して見られる名詞である。「発言」「宣言」は「断定」を表す文、ここでは聞き手に対して強く言い放つ発話を表す文（「絶交だ」など）に後続する。「程度」「レベル」が後部要素となる場合は話者の感想を表す心内発話（「ああ、そういう人がいるんだ」など）が前部要素になるのが特徴である。

④終助詞「な」の用例

以下の表 7 は前部要素が「終助詞「な」」で終了する文の場合の集計結果である。

表 7　終助詞「な」で終了する文に後続する名詞の種類（用例数が 50 件以上見られたもの）

順位	名詞	度数	前部要素の一例
1	程度	1,936	「あったらいいな」「ないよりマシかな」「　　あーそういうことあったなぁ」
2	発言	371	「内政干渉するな」「勘違いするな」「金ないのに結婚するな」
3	状態	256	「お前が言うな」「なんだかなぁ」「これでいいのかな」
4	レベル	151	「あったらいいな」「できたらいいな」「聞いたことがあるかなー」
5	オーラ	146	「近寄るな」「声をかけるな」「入ってくんな」
合計		2,860	

「終助詞「な」」については 2,860 件の用例数に対して 5 種類の名詞しか見られず、全体の約 6 割を占めるのが「程度」という名詞である。終助詞「な」には「禁止」と「詠嘆」を表す場合があるが、「発言」「状態」「オーラ」は「禁止」と「詠嘆」の両者を表す文が見

[32] 「エンド」はここでは冒険を題材とした漫画やアニメ、ゲームなどの最終回やエンディングを表している。「「俺たちの戦いはこれからだ」エンド」は、文脈から判断すると、最終回やエンディングの場面で、主人公たちが最後の敵を倒した後に、さらにより強い敵が現れ、次回作へ続くことを予想させる終わり方となっている様子を表している。

られるのに対し、「程度」「レベル」ではほぼ全用例が「詠嘆」を表す文であった。

なお、上記の収集結果には 50 件以上の用例が観察された名詞のみを掲載しているが、50 件以下の用例しか見られなかった名詞には次のようなものが見られる。それは「戦法」「主義」「理論」「モデル」「バージョン」「リスト」「パターン」「コース」「ハラスメント」などである。

6. 考察

収集した実例をふまえて、第 3 節「先行研究の検討」で示した「①後部要素の特徴」、「②前部要素の特徴」、「③前部要素と後部要素との関係」という 3 つの観点から順に考察を行う。

6.1 後部要素の特徴

「語が文を包摂する形式」を形成する後部要素の名詞にはある出現傾向が見られる（以下の①～③）。その特徴について順に述べていく。

①具体的な事物を表す名詞より抽象的な概念を表す名詞が多い

当該の形式を形成する名詞は、具体的な事物を表す名詞ではなく、抽象的な概念を表す名詞であるという特徴が見られる。例えば、「活動」に関する名詞（「「カンボジアに学校を建てよう」プロジェクト」「「選挙へ行こう」運動」など）、「言語」に関する名詞（「「休みたければ辞めろ」発言」「「迎えに来い」メール」など）、「様相」や「程度性」に関する名詞（「「話しかけないでください」オーラ」「「気をつけなきゃな」程度」「「こりゃ、ど一見ても本物だ」レベル」など）の用例が多く見られた。

このように、当該の形式は先行研究で取り上げられていた名詞「状態」のみならず、種々の名詞が後部要素となる実例が観察される。ただし、複合名詞の後項となる名詞であれば、必ずしもすべて当該の形式を形成できるとは限らず、以下の②および③のような傾向が見られる。

②臨時的な複合語を形成しやすい名詞ほど当該の形式を形成しやすい

文を包摂する形式の後部要素となる名詞は、その名詞の類義語と比して、種々の複合名詞を形成する後項名詞として用いられやすいものである。例えば、文を包摂する用法を持つ「状態」という名詞は、「健康状態」「昏睡状態」のような辞書に用例として挙げられている複合語のほかに、「おひとりさま状態」「順番待ち状態」（新屋 2014：336）といった臨時的な複合語を形成しやすい。

一方、「状態」の類義語である「状況」という名詞は、文を包摂する形式となる実例は見られない。「状況」も複合名詞の後項となる用法（「進捗状況」「経済状況」など）があるものの、「状態」の方が形成される臨時的な複合語が多い（新屋 2014：327）。このように、臨時的な複合語の後部要素として既に用いられている名詞ほど、その造語力が高く、「語が文を包摂する形式」も形成しやすいのではないかと推測される。

③和語よりも漢語・外来語のほうが当該の形式を形成しやすい

以下の表 8 は、後部要素の名詞を語種ごとに分類したものである。以下、表 8 から読み取れる点について述べる。

表 8　後部要素の名詞の語種（50 件以上の用例が見られたもの）

語種	例	異なり語数
和語	遊び	1
漢語	企画、運動、計画、講座、発言、宣言、画面、表示、連呼、状態、程度、作戦、精神、方式、攻撃、指令、命令	17
外来語	キャンペーン、コーナー、イベント、プロジェクト、ツアー、ゲーム、デモ、コール、メール、メッセージ、コメント、オーラ、ポーズ、レベル、モード、タイプ、シリーズ、エンド、スレ、アピール	20

当該の形式を形成する後部要素の名詞には語種の偏りが見られ、大半が漢語（17 種）または外来語（20 種）である。和語に関してはほとんど見られない（1 種）。なお、50 件以上の実例が観察された和語名詞は「遊び」のみ（ただし、その用例は「「取って来い」遊び」「「持ってこい」遊び」[33]の 2 種類のみ）である[34]。

当該の形式において漢語名詞が多く見られるのは、漢語はその造語力・生産性が高く[35]、他の語種よりも造語成分になりやすいという語形成の傾向とも合致する。和語があまり見られないのは、当該の形式を形成する後部要素の名詞が「抽象的な概念を表す名詞」であるという特徴（6.1 節「後部要素の特徴」①）に関係していると考えられる。和語は「抽象的な語が少なく具体的な個物や事象を表す語が豊富」（玉村 2002：79）であり、抽象的な概念を表す名詞が少ないために当該の形式の後部要素となりにくいのではないかと考えられる。

6.2 前部要素の特徴

収集した実例を観察すると、語が文を包摂する形式の前部要素の文の形式には次の 3 つのタイプが見られる。すなわち、「発話」（「「今すぐ辞めろ」発言」など）、「成句」（「「善は急げ」作戦」など）、「タイトル」（「「翼をください」状態」[36]など）である。

第一のタイプは前部要素が「発話」の形式であり、収集された大半の実例はこのタイプである。基本的に、心情や印象が述べられた文（心内発話）が前部要素となる場合が多いが（「「へぇ、こんなのがあるんだ」程度」など）、実際に発言された内容が引用されて前部要素に取り込まれる場合も一部見られる（「「今すぐ辞めろ」発言」など）。

当該の形式を形成する後部要素は基本的に抽象的な概念（活動・言語・様相・程度性など）を表す名詞であり、何らかの修飾要素を伴わなければ、その内実が具体的に定まらないものである。その抽象的な概念について、仮にその内容を言語化した場合に言い表される発話が前部要素に提示される。このように、前部要素が発話の形式であることによって、聞き手にはその発話が用いられるような個別の場面・状況が喚起され、当該の概念の内実が具体的に

[33] 文脈から判断すると、飼い主がフリスビーやおもちゃを遠くへ投げ、飼い犬に取って来させるような遊びのことを指すと考えられる。

[34] 「遊び」は「言葉遊び」「雪遊び」「ボール遊び」「人形遊び」「砂遊び」「泥遊び」「水遊び」のように種々の複合名詞を形成することができ、和語名詞の中でも造語力が比較的高い名詞であると考えられる。

[35] 漢語は「基本単位の拍が短く，微妙な概念を明確に表すものが多いこと，またその基本単位の組み合わせ手続きが簡単で自由な結合をゆるすことによって，他の和語・外来語の及ばない造語力・生産性を発揮する」という特徴がある（玉村 2002：85）。

[36] 「翼をください」は合唱曲のタイトルである。

想起される（例（10））。

（10）ソヌヒョンが韓国に戻ってくる飛行機内で「お医者様はいらっしゃいませんか？」状態が発生し、電動工具で飛行機内緊急オペ、、、　（新屋 2014：340（15））

例（10）の「「お医者様はいらっしゃいませんか？」状態」は、「飛行機内で救急患者が出て、客室乗務員が乗客の中から医師を探すアナウンスが流れるような状態」を表す。このように、読み手が書き手と同じ言語文化を共有していれば、前部要素の発話によって当該の場面・状況が喚起されつつ、後部要素の抽象的な概念が具体的に表される。

第二のタイプは、文の形式をとる「成句」が前部要素になる場合である。特に後部要素が「作戦」「方式」「精神」のように手法や方針、心持ちを表すような名詞の場合に当該の形式が形成されやすい（「「善は急げ」作戦」「「郷に入っては郷に従え」方式」、「「習うより慣れよ」精神」など）。前部要素に見られる「ことわざ」は古くから生活の体験に基づき言われてきた教訓を表すものであるため、手法や方針を表す名詞と共起しやすいのだと考えられる。また、「作戦」「方式」などの名詞は、成句を表す語や句の形式に後接し、臨時的な複合語を形成する（「「一石二鳥」方式」「「漁夫の利」作戦」など）。その造語法に基づく類推の結果、成句を表す文の形式にまで前項が拡大したのではないかと考えられる。

第三のタイプは、用例数は多くないが、文の形式をとる「タイトル」（ドラマ名など）が前部要素となる場合である（「「愛していると言ってくれ」状態[37]」など）。文を包摂する形式の後部要素となりやすい名詞は、種々の語や句を前項として臨時的な複合語を形成する（「「朝ドラ」状態」「「ひよっこ」状態」「「花子とアン」状態」[38]など）。その造語法から類推され、文の形式の「タイトル」を前部要素とする形式が生じたのではないかと考えられる。

6.3 前部要素と後部要素との関係

6.3.1 後部要素の名詞がとりやすい前部要素の文末形式

収集した実例を観察すると、前部要素の文末にどのような形式が現れるのかを問わず後部要素になり得る名詞（「発言」「状態」「程度」）と、特定の文末形式にしか後続しない後部要素の名詞が見られる。以下では、前部要素の文末形式が動詞の命令形または意志推量形である場合について、それに後続する名詞の特徴をいくつか述べる。

①命令形

前部要素の文末形式が命令形の場合、それに後続する名詞で最も用例数が多いのが「コール」である。「コール」は意志推量形、助動詞「だ」の終止形、終助詞「な」に後続する用例は見られない[39]。「コール」は「語が文を包摂する形式」の用例の中では、「通話」の意味

---

[37] 「愛していると言ってくれ」はテレビドラマのタイトルである。

[38] 「朝ドラ」とは「NHK 連続テレビ小説」の通称で、毎日朝の時間帯に放送されているテレビドラマである。「ひよっこ」「花子とアン」はいずれも「朝ドラ」のタイトルである。

[39] 今回収集したデータには「コール」が命令形以外の文末形式に後続する用例は見られなかったが、ウェブ上のテキストでは次のような用例も観察された。「離れた場所に暮らす高齢者等の家族に危険が差し迫った場合、家族が直接電話をかけて避難行動を呼びかける「逃げなきゃコール」の取組を、ＮＨＫ（NHK 防災アプリ）、ヤフー（株）（Yahoo!防災速報アプリ）、ＫＤＤＩ（株）（登録エリア災害・避難情報メール）の協力を得て、新たに開始します。」（国土交通省公式ホームページ https://www.mlit.go.jp/report/press/mizukokudo03_hh_000981.html（2019 年 6 月 3 日閲覧））。ここでの「コール」は「通話」を表し、「逃げなきゃ」という義務を表すモダリティ形式を含む文に後続している。

を表す場合と「呼びかけ」の意味を表す場合が見られる。前者の「通話」の場合は主に「指示」「依頼」を表すような発話が前部要素となる（「「戻って来い」コール」「「迎えに来てくれ」コール」など）。後者の「呼びかけ」を表す場合は主に「声援」「応援」を表すような発話（「「かっ飛ばせ」コール」など）や、「非難」「野次」を表すような発話（「「辞めろ」コール」など）が前部要素となる。このように、応援や非難はいずれも発信者側からの強い感情を伴う呼びかけであり、（大勢の人たちによる）大きな声での掛け声を表す「コール」と共起しやすいのだと考えられる。

また、収集した 4 つの文末形式の用例のうち、命令形で終了する文にしか後続しなかった名詞としては「命令」「指令」がある（「「帰って来い」命令」「「買って来い」指令」など）。「命令」「指令」といった名詞はそれ自体が他者に何らかの行動をとるように言いつけるという語彙的な意味を持っているため、命令形によって命令や指示を表す文となじむのだと考えられる。

②意志推量形

前部要素の文末形式が意志推量形の場合、それに後続する名詞で最も用例数が多いのは「キャンペーン」[40]である（773 件）。「キャンペーン」は何らかの行為を人々に呼びかける宣伝・啓蒙活動を指すため、文末の意志推量形によって「勧誘」を表す文と共起しやすい（「「イオンカードセレクトで得しちゃおう」キャンペーン」「「幻のポケモンたちをもらおう」キャンペーン」など）。特に企業が実施するキャンペーンの名称としてキャッチコピー的に用いられている用例が多い。

そのほかには、「企画」「プロジェクト」「計画」「ツアー」といった名詞は、収集した 4 つの文末形式の用例のうち、意志推量形を文末形式とする前部要素にのみ後続する（「「お花を贈ろう」企画」「「カンボジアに学校を建てよう」プロジェクト」「「台湾へ行こう」計画」「「そらジローに会いに行こう」ツアー」など）。いずれの前部要素も意志推量形によって発話者の意志・勧誘を表す文であるため、「企画」「プロジェクト」「計画」「ツアー」などの意志性や計画性を伴う名詞となじむのだと考えられる。なお、「キャンペーン」や「プロジェクト」は企業などの組織におけるキャッチコピーや活動名に用いられる場合が多い。「企画」「計画」「ツアー」は個人的な予定・イベントに対する名づけとして用いられる場合も見られる。

6.3.2 当該の形式の意味構造

当該の形式は、後部要素の名詞で表される抽象的な概念が、前部要素の文で表される発話によってその内実が具体化されるという意味関係にある。一般的に複合名詞の多くは、要素間が等位的な関係にあるもの（「大中小」「松竹梅」など）を除き、「問題発言」（問題のある発言）、「緊張状態」（緊張した状態）のように、前項によって後項が特徴づけられる。すなわち、「種差＋類概念」（「限定成分＋主要成分」）（石井 2007）という構造をとる。当該の形式も前部要素の発話形式によって後部要素の抽象的な概念が特徴づけられ、具体化されている。その点で、前部要素を「種差」とし、後部要素を「類概念」とする複合名詞の構造を形成していると捉えられる。

---

40 「キャンペーン」は、「「ミッキーマウスを探せ」キャンペーン」のように、文末形式が命令形の文に後続する用例もある。

以下の例（11）では、後部要素の名詞で表される抽象概念の内実が、発話の形式で前部要素に提示されている。

（11）＜自身のブログの記事について＞私もしっかりと勉強してこの記事を書いてるわけじゃありませんから、「そんなこともあるんだ」程度に聞いておいてほしいんですけど・・・。（ブログ『専務取締役杜氏の純米酒ブログ』[41]）

例（11）の「「そんなこともあるんだ」程度」の部分を、既存の形式で言い換えるとすれば「参考程度」という表現も可能である。「参考程度」という形式であれば、前項「参考」が類概念を表す後項「程度」を限定する成分として機能し、「参考にする程度」という具体的な意味が表される。当該の形式も同様に、抽象的な概念である「程度」がどのくらいのものであるのかについて、「「そんなこともあるんだ」という発話で言い表せるくらいのものである」ということが前部要素の発話形式によって示されることになる。

このように、「参考程度に話を聞く場面」での聞き手の印象を表すような文（「そんなこともあるんだ」「へー、そうなんだ」「ふーん、そうなのかあ」など）を前部要素に提示することで、そのような発話がなされる状況・場面が臨場感を持って喚起される。さらに、抽象的な概念である「程度」がどのようなものであるのかが特徴づけられ、具体化される。

7. まとめと今後の課題

本稿では語が文を包摂する形式について、ウェブコーパスを用いて実例を収集し、その形式的な特徴の記述を行った。本稿で明らかになった形式的な特徴は以下の 4 点である。

①当該の形式を形成する後部要素は、具体的な名詞ではなく、抽象的な概念（活動・言語・様相・程度性・手法など）を表す名詞である。特に、和語名詞はほぼ見られず、漢語・外来語名詞が多い。そのような漢語・外来語名詞は臨時的な複合語の後部要素となりやすいという特徴が見られる。

②前部要素の文は主に心情や印象が述べられた発話の形式が多い。その発話形式は後部要素の名詞が表す抽象概念の内実について、それを言語化したものである。

③前部要素の文の意味と、後部要素の名詞の意味的な特徴との関連の強さによって、後部要素の名詞が後続しやすい文末形式は異なる。例えば「コール」「命令」などは命令・非難を表す文と、「企画」「プロジェクト」などは意志・勧誘を表す文と意味的な関連の強い名詞である。そのような名詞は特定の文末形式（命令形・意志推量形）に後続しやすい。

④当該の形式におる前後の意味関係は、一般的な複合名詞の持つ意味構造と同様である。すなわち、後部要素が「類概念」を表し、前部要素の発話形式がその類概念を特徴づける「種差」として機能するという関係にある。

本稿では、語が文を包摂する形式について、その出現状況および形式的な特徴を記述するため、形式によって実例を分類した。しかし、今後は前部要素の文の意味・機能の観点からの考察も必要である。例えば、前部要素の文に現れる文末形式が「命令形」の場合、前部要素の文の意味・機能には「命令」以外にも「応援」（「頑張れ」など）、「依頼」（「買ってください」など）、「挨拶」（「おやすみなさい」など）を表すものが含まれる。そのため、文の意

[41] http://sinanoturu.blog77.fc2.com/blog-date-201306.html（2019 年 5 月 31 日閲覧）

味・機能によって後続する名詞の種類に違いが見られるのではないかと予想される[42]。今後はこのような観点も含め、当該の形式の意味・機能についてさらに分析を行っていく。

付記

本稿は、『言語資源活用ワークショップ 2019』（2019 年 9 月 2 日・国立国語研究所コーパス開発センター）における発表内容を一部修正して文章化したものである。

謝辞

本稿の執筆に際し、東京外国語大学・教授の鈴木智美先生、早津恵美子先生、桜美林大学・名誉教授の新屋映子先生にはきめ細やかなご指導を賜りました。心より深謝申し上げます。

参考文献

石井正彦（2007）『現代日本語の複合語形成論』, ひつじ書房.
泉大輔（2018）「文が名詞に直接接続する構文の形式的特徴に関する考察」『第 16 回日本語教育研究集会予稿集』, 第 16 回日本語教育研究集会, pp.26-29.
大島資生（2003）「連体修飾の構造」北原保雄編『朝倉日本語講座 5 文法 I』, 朝倉書店, pp.90-108.
沖森卓也編・木村一・鈴木功眞・吉田光浩著（2012）『語と語彙』, 朝倉書店.
影山太郎（1993）『文法と語形成』, ひつじ書房.
金田英里（2014）「接尾辞としての『ー感』に接続する要素の拡大」『日本語教育論集』, 23, 姫路獨協大学大学院, pp.1-8.
新村出編（2018）『広辞苑』（第七版）岩波書店.
新屋映子（2014）『日本語の名詞指向性の研究』, ひつじ書房.
日本語記述文法研究会編（2008）『現代日本語文法 6 第 11 部 複文』,くろしお出版.
玉村文郎（2002）『日本語語彙の研究』龍谷大学博士論文.
林四郎（1982）「臨時一語の構造」『国語学』,131, 国語学会, pp.15-26.
山下喜代（2005）「漢語と文体―漢語接尾辞を含む合成語と引用表現を中心にして―」中村明・野村雅昭・佐久間まゆみ・小宮千鶴子編『表現と文体』, 明治書院, pp.87-97.

コーパス

『国語研日本語ウェブコーパス』http://bonten.ninjal.ac.jp/

[42] このほか、「意志推量形」の場合、「意志」「勧誘」「推量」といった意味・機能を表す文、終助詞「な」の場合は「禁止」「詠嘆」といった意味・機能を表す文が見られ、その文の意味・機能によって後部要素となる名詞の種類には違いがあると予想される。